



水辺再生でつがい数が増加

大池をにぎわす カイツブリ

上尾丸山公園「大池」は、2019年に行ったかいぼりによってカイツブリが繁殖する池になった。カイツブリの親子連れは市民にも認知されるようになり、撮影に訪れる人も。水草やトンボも増えて、水辺の生きものを楽しめる場になっている。

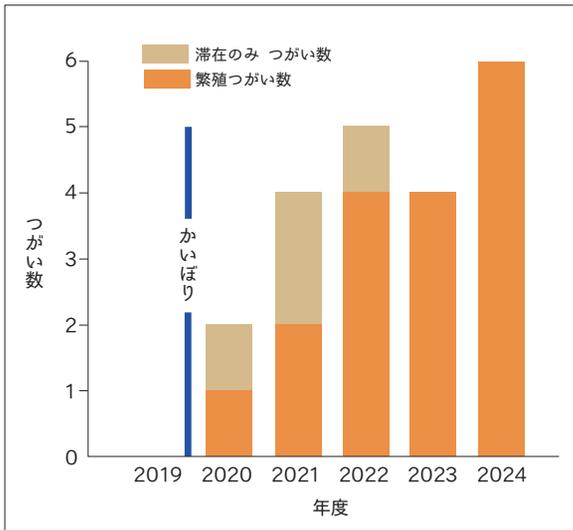


図. カイツブリのつがい数の推移

を進めていく。

大池のカイツブリは、かいぼりを起点とした水辺再生の取組の象徴と言える。水草が豊富で、多様な水鳥やトンボなどが生息する水辺を目標に、これからも協働による取組

ことなどが考えられる。

大池でカイツブリが増加した理由として、2019年以降、池底の干し上げを継続的に行い比較的良好な水質が保たれていること、食物になる小型の在来魚などが豊富に生息していること、巣を造る抽水植物の茂みが拡大している

ことなどが考えられる。

大池で繁殖するカイツブリのつがい数は年ごとに増加している。2024年は池全体で6つがいが繁殖し、独り立ちしたヒナは14羽を数えた。

繁殖つがい数が増加

大池で繁殖するカイツブリのつがい数は年ごとに増加している。2024年は池全体で6つがいが繁殖し、独り立ちしたヒナは14羽を数えた。

2019年のかいぼりで外来魚を駆除し、抽水植物のヒメガマなどが生育できる環境整備を行ったところ、翌年にカイツブリが繁殖した。大池でカイツブリが繁殖したのは1978年の開園以来、初めてであった。

カイツブリは魚やエビなどの水生生物を食べる小型の水鳥だ。埼玉県内には普通に分布しているが、大池に飛来することは少なかつた。かつての大池は、外来魚が生息していたカイツブリの食物が少なかつたほか、巣を造る抽水植物の茂みもなく、生息しにくい状態だったのである。

かいぼりでカイツブリが棲む池に



ヒメガマの茂みに隠れるカイツブリ

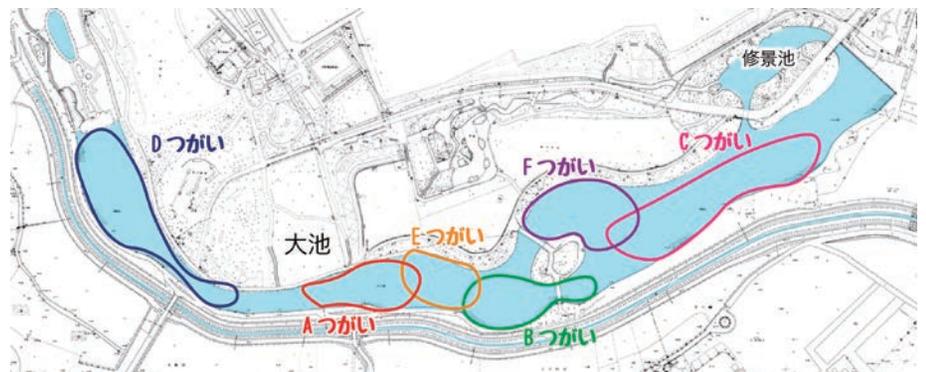


図. カイツブリの2024年繁殖期のつがい行動圏

注目の! TOPICS



池底に芽生えたイトモの仲間 (2025年5月)

沈水植物を初確認!

沈水植物は葉や茎が水中にある水草で、水質悪化や外来種による捕食などの影響で生育地が減っています。大池ではかいぼりによる沈水植物の生育が期待されていましたが、2025年5月、ついに生育を確認することができました!

大池の数メートルの範囲に草丈5センチほどの芽生えが点在していました。形状からイトモの仲間と考えられます。

アメリカザリガニによる捕食などのためか、6月には沈水植物が確認できなくなっていました。池底に沈水植物の種子が眠っていることがわかり、自然再生活動に弾みがつく発見となりました。

ぜったいだめ 水草の持ち込み

上尾丸山公園の池で、水草のアサザとコウホネが発見されるというできごとがありました。栽培品が投げ込まれたようです。在来種であっても、産地不明の個体や他の個体が持ち込まれると、交雑してこの地域の在来集団の固有性が失われてしまいます。こうした理由から、今回発見した水草は池から回収しました。

上尾市では湿地の再生や外来種防除を通して水草の生育環境を整え、さまざまな水草が自然に生育する状態を目指して取組を進めています。水草を持ち込むと、栽培土や水に混入していた病原菌や微細な生物も侵入してしまうのでおやめください。



コウホネ (2025年5月)



アサザ (2025年5月)

下記リンクよりダウンロード可能です



上尾市では動植物の持ち込みについて紹介したリーフレットを発行していますので合わせてご覧ください。



募集 上尾水辺守活動 体験参加

上尾丸山公園の水辺再生に携わるボランティア「上尾水辺守」(18名、2025年8月現在)の追加メンバーを募集します。9月から2月の活動体験日に参加し、さらに活動を続けたい人はメンバーに登録できます。参加条件などの詳細はホームページをご覧ください。



上尾市みどり公園課のホームページへ!



めざせ! 大池再生

みずべもり通信

- 多様な連携 進む進む 湿地再生 -

上尾丸山公園では、昨冬は上尾水辺守と上尾市による協働のほか、さまざまな団体等と連携して活動を進めました。保全イベントを毎月開催して一般参加の機会を増やし、保全面積の拡大を図りました。イベントには地域の人のほか、ボランティアをしたい学生や大人、湿地保全に関心のある人が遠方から参加しました。作業後の達成感が大きく、リピーターになる人が多いのが特長です。人工池のシート剥がしイベントは特に人気で、計4回で44人が参加しました。

このほか、首都圏で自然再生活動を行うボランティアの研修2件、企業ボランティアの受け入れを行いました。団体受け入れは、作業が進展するばかりでなく、さまざまな人と一緒に活動することで水辺守にもやり甲斐が大きく、刺激になっています。

